



医師



心臓にも脂肪がついていることをご存じですか？

循環器内科副部長 原田 憲

心臓周囲脂肪について

「メタボ」という言葉をよく耳にするようになって久しいと思います。メタボリックシンドローム(ウエスト周囲径の増加に加えて、血糖、血清脂質、血圧のうち、2つ以上が基準値を超えている状態)のことで、メタボになると心血管疾患や脳卒中などの動脈硬化性疾患をおこしやすくなるといわれています。このメタボリックシンドロームは、お腹の脂肪である、腹部内蔵脂肪の蓄積を特徴とするものですが、最近、メタボリックシンドロームの患者さんは心臓の周りについている脂肪も増えていることが明らかになってきました。

この心臓の周りについている脂肪—心臓周囲脂肪—も内臓脂肪の一種で、心臓の血管(冠動脈)を包むように存在しています。心臓周囲脂肪から分泌される物質が直接冠動脈に影響を及ぼし、炎症や動脈硬化を促進することによって、心筋梗塞などをおこしやすい血管性状にすると考えられています。

心血管疾患の患者さんで、心臓周囲脂肪量が増加していたという報告は多数みられます。とくに肥満のない患者さんにおいて、心臓周囲脂肪の増加は、冠動脈疾患の危険因子であると報告されています。我々の研究でも、心筋梗塞で入院した患者さんの心臓周囲脂肪量は、健常の方と比べて増加し

ていました。さらに心臓周囲脂肪が増加していることは、喫煙や糖尿病などと同様、それだけで心筋梗塞に關与する因子であることも分かりました。

一般的に、心臓周囲脂肪量は肥満に伴い増加します。ところが、心筋梗塞患者さんの一部には、やせているのに心臓周囲脂肪量だけが多い人がいました。心臓周囲脂肪量の測定は、とくに非肥満者で心血管疾患のリスク評価に有用である可能性が考えられました。やせている人でも、心臓周囲脂肪が増加していれば要注意かもしれません。

心臓周囲脂肪、炎症促進と抗炎症組織としての二つの役割

心臓周囲脂肪は、炎症を促進し動脈硬化に關与する一方、心血管障害に対応して、アディポネクチンなどの分泌を介し、心臓を保護する効果を及ぼすことも分かってきました。心臓周囲脂肪を減らしすぎることにも良くないのかもしれませんが、どれくらいの心臓周囲脂肪量が適当かはまだわかっておりません。

また安定している心血管疾患の患者さんを対象とした、我々の研究では、心臓周囲脂肪量と冠動脈性状には關連を認めませんでした。心臓周囲脂肪は患者さんの状態によってその役割が異なるのかもしれませんが、

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さんの建設的な意見を反映する広場として発行しています。